

① 学問成就・合格祈願の山

白楽天山は、唐の詩人・白樂天が、老松の上に住む道林禪師を訪ねる場面を表しています。白樂天は、白地の衣装に唐冠をかぶり、「しゃく」を両手に持ち、道林禪師の答えを承る姿勢で立っています。また道林禪師は、紫衣と藍色の帽子を着け、手には数珠と払子を持ち、松の皮の上に腰かけています。白樂天から仏法の大意を問われた道林禪師が「悪いことをせず良いことをすること」と答えると、白樂天は「そんなことは子供でも知っている」と言います。道林禪師は、「その通りである。しかし八十歳の翁でも行い難いことではないか」と説かれ、白樂天は感服します。白樂天の求道心と悟りにあやかり、学問成就の御利益があるとされる山です。

成就 …物事を成し遂げること。また、願いなどがかなうこと。

合格祈願

唐 …中国の王朝名。618～907。

老松 …年をへた松。おいまつ。古松。

道林禪師

白地 …地とは加工や細工の土台。地が白いこと。

唐冠

しゃく

承る …（目上の人を）つつしんで聞く。拝聴する。

数珠 …

仏法 …仏の説いた教え。仏の悟った真理。仏道。仏教。

大意 …大体の意味。

感服

求道 …宗教的悟りや真理の道を求めて修行すること。「一心」「一者」

悟り …物事の真の意味を知ること。理解。

あやかる…影響を受けて同様の状態になる。感化されてそれと同じようになる。ふつう、よい状態になりたい意に用いられる。「彼の幸運にあやかりたい」

御利益…神仏を信ずることから受ける恩恵。めぐみ。



②世界で一番長く続いている祭、それが祇園祭
 祇園祭は八坂神社の神様・素戔鳴尊が家族とともに三基の神輿に乗って、年に一回、氏子の街に渡御されるお祭りです。世界で一番長く、1100年以上続いています。祇園祭は八坂神社が行う神事「神輿渡御」と下京の町衆が行う「山鉾巡行」の二つの行事があります。7月1日の各山鉾町の切符入りに始まり、17日の前祭の巡行で神様をお迎えし、24日の後祭で神様をお送りします。前祭と後祭の前日三日間には宵山があり、各山鉾の提灯に明かりが灯り、祇園囃子が流れます。31日に疫神社(八坂神社内)にて夏越祭が行われ、祇園祭は終了します。
 注4(渡御)神輿が進み出ること 注5(切符入り)神事はじめの意味
 注6(宵山)本祭の前夜の祭

八坂神社

素戔鳴尊…記紀神話で出雲系神統の祖とされる神。伊弉諾・伊弉冉二尊の子。天照大神の弟。粗野な性格から天の石屋戸の事件を起こしたため根の国に追放されたが、途中、出雲国で八岐大蛇を退治して奇稲田姫を救い、大蛇の尾から天叢雲剣を得て天照大神に献じた。新羅に渡って金・銀・木材を持ち帰り、また植林を伝えたともしられる。
 神輿…神霊を安置する、こし。祭礼のときなどに担ぐ。みこし。

氏子…氏神の鎮守する土地に住んでいて、その守護を受け、それを祭る人々。

氏神…室町時代以降、同一の地域内に居住する人々が共同でまつる神。

神事…神をまつる儀式。まつり。

下京

町衆

巡行…祭礼などのとき、御輿や行列が、一定のコースを順に回ること。お練り。

囃子…日本の各種の芸能で、演技・舞踊・歌唱(謡・唄)の伴奏のために、あるいは雰囲気を出すために、楽器(主に笛と打楽器)や人声(掛け声・囃子詞)で奏する音楽。

夏越祭

③ 疫病退散、町衆の思い

869年、都に疫病が流行した時、朝廷は「疫病は怨霊の仕業」と恐れ、これを鎮めるために大内裏の南にあった神泉苑の池のほとりで御霊会を行いました。この時、洛中の男児が祇園社八坂神社から神泉苑まで三基の神輿を送り出して、当時の国の数と同じ六十六体の鉾を立てて疫病退散を祈願したのが祇園祭の始まりとされています。その後、応仁の乱や、江戸時代の三度の大火などの災害に見舞われたものの、そのたびに再建されてきました。太平洋戦争でも中断しましたが、昭和22、23年に変則ながら再開し、27年には戦前のままの巡行が復活しました。昭和30年代からは交通事情などの問題から、巡行経路や、前祭と後祭の合同巡行等への変更もありましたが、平成26年、49年ぶりに後祭が復活しました。

(大内裏) 平安の宮城 (御霊会) 祟りを防ぐことを目的とした、鎮魂のための儀礼

④ 動く美術館と言われる山鉾巡行

祇園祭を豪華絢爛に彩る山鉾は、鉾、山、傘鉾に大別されます。鉾は疫病の依代となる真木を中心に屋形を組み、それに車をつけて曳く形態です。傘鉾は大きな傘の上に作り物や松を飾った風流傘です。山は「曳山」と「昇山」に分けられます。曳山は鉾の真木が真松に変わるだけで、ほかは鉾と同じです。昇山は、神話や故事、伝説などの一場面を表現した、言わば移動する演劇舞台です。白楽天山は昇山ですが、白楽天の真松は、祇園祭の山の中で最も高く、地上からの高さは7メートル以上あります。

山鉾を飾る世界の貴重な染織品の多くは懸装品と呼ばれ、今から数百年前の江戸時代に海外から日本に入ってきたもので、豪華絢爛な一級の美術品です。そのため、祇園祭には「動く美術館」という別名もあります。白楽天山を飾る前懸の中心のタペストリーは16世紀ベルギー製で「イーリアス」の中のトロイア陥落の1場面を表しています。胴懸、水引及び見送はフランスから購入したタペストリーです。

(「イーリアス」)ホメロスによって作られたと伝えられる長編叙事詩、トロイの木馬で有名

⑤ちまきに注目

笹の葉ささ はで作られた疫病・災難除けのお守りえきびょう さいなんよ まもであるちまきは、詩人白樂天しじんと道林禪師どうりんぜんじの問答もんどうに因み、学問成就がくもんじょうじゆ、招福除災しょうふくじよさいの護符ごふがつけられています。

見送「北京万寿図」毛織綿べきんまんじゆず け おりめん
山鹿清華作 1953年日本製やまが せいか ねんにほん

見送「水辺の会話」毛織物 18世紀フランス製みずべ かいわ け おりもの
胴懸「農民の食事」ゴブラン織 17世紀フランス製のうみん しよくじ おり
胴懸「女狩人」ゴブラン織 18世紀ベルギー製おんなか りゆうど